

2019(令和元)年度 自己点検・評価の概要

(1) 授業評価

授業評価に関しましては各期に実施する全校学生に対して実施した授業アンケートをもとに評価しました。下表の表-1は評価の内容として、各科目の「授業時間の厳守」(以下「定刻」という。)と「授業内容の理解」(以下「理解」という。)の2点についてクラス毎に実施し、数値化し加えて平均したものを「総合点」と称し、各期の全科目の平均を「総合点平均」として表したものであります。

表-1 各期と全教科の総合点平均

期	総合点平均	変化
H28 前期	86	△1
H28 後期	87	△1
H29 前期	86	▼1
H29 後期	86	-
H30 前期	87	△1
H30 後期	88	△1
R 元前期	87	▼1
R 元後期	87	-

表-2 総合点と科目数

期/総合点	80 点以上	70 点以上	60 点以上	60 点未満
H28 前期	63	7	1	0
H28 後期	68	4	1	0
H29 前期	66	3	2	0
H29 後期	69	3	0	0
H30 前期	68	3	0	0
H30 後期	67	5	0	0
R 元前期	66	4	1	0
R 元後期	69	3	0	0

表-1 より今年度の年間総合点平均は 87 点となり、過去 3 年の平均値 86 点を上回りましたが、前年度の後期と比較しますと 1 点低下しました。これは、「定刻」評価の平均が 94 点となり、1 点低下した(前年度 95 点)ことによってであります。「理解」評価の平均に関しては前年度と変わらず 80 点でありました。また、表-2 はそれぞれの科目(年間科目含む)が得た総合点を得点範囲で示したものであります。総合点 80 点以上の科目が前後期平均で 67 科目(全科目の 93%)であり、前年度と同じ値でした。細部で前期 60 点台の科目及び 70 点台の 1 科目が後期は改善しました。

表-3 学年クラスごとの年間総合点(数値目標 90 点) 平均

クラス(A:工学科、B:デザイン科)	1A	2A	3A	4A	1B	2B
年間(前・後期)総合点平均	86	87	85	92	85	87

表-3 について 4 学年を除き他学年は数値目標が未達成でありました。アンケート自由意見の多くは「理解」評価に関わる内容であり、細部で講義科目においては板書・発声・スピード・配付資料などへの意見・要望でした。また、実習系科目についてはプロジェクター使用・スピードなどでした。先生方にはこれらの学生意見を含みおきいただきまして次年度への授業準備等よろしくお願い申し上げます。

表-4 今年度の出席状況と次年度予想(2020/2/11)

クラス	2019(令和元)年度の状況	2020(令和 2)年度の予想
4A	出席率は標準。出席不良者は前期 4 人、後期 2 人(特定の出席不良者である)。	卒業。
3A	出席率は良い。退学者 1 人(留年生)。出席不良者は前期が 9 人、後期は 5 人(特定の出席不良者である)。	(新 4A)学年クラスのみとまりがあり、卒業学年となるので改善が考えられる。他方、一部の出席不良者の留年が予想される。
2A	出席率は良い。退学者 4 人。出席不良者は前期 4 人、後期 4 人(うち 2 人が特定の出席不良者である)。	(新 3A) 高校時の学力レベル差が生じているため個々の能力に対応した授業を行うことにより退学に傾く学生の思いを防げると考えられる。他方、出席不良者の退学・留年が予想される。

1A	前期の出席率は良、後期は 5%減少。退学者 4 人。出席不良者は前期 2 人、後期 4 人(うち 2 人が特定の出席不良者である)。	(新 2A)高校時の学力レベル差が生じているため個々の能力に対応した授業を行うことにより退学に傾く学生の思いを防げると考えられる。他方、出席不良者の退学・留年が予想される。
2B	1 組:出席率は良い。退学者 3 人(うち留年生 1 人)。出席不良者は前期 1 人、後期 5 人(うち特定の出席不良者 1 人) 2 組:出席率は悪い。出席不良者は前期 6 人、後期は 14 人(うち留年可能性は 2 人)。	卒業・一部留年が予想される。
1B	1 組:出席率は悪い。留年者を除く出席不良者は前期 4 人、後期 5 人(全員が特定の出席不良者である)。 2 組:前期の出席率は標準、後期は 9%減少。退学 1 人。出席不良者は前期 6 人、後期 12 人(怪我による長欠席者 1 人含む特定の出席不良者は 5 人)。	(新 2B)インターンシップを終了し上級学年に進級後、就職への決意が持てればをもち出席不良が改善する。他方、一部の出席不良者の退学・留年が予想される。
まとめ	単発的に発生した欠席に対して、担任及び科目担当者は迅速に対応し、長欠席や留年を防ぐ指導をする。保護者とも連携して学びの目的(初心の志)を確認させ授業出席の重要性を気付かせる。	

(2) 退学者状況

表-5 退学者の推移

年度	退学者計	在籍数	退学率 (%)
H20	11	145	7.6
H21	8	100	7.8
H22	9	102	8.8
H23	9	102	8.8
H24	3	91	3.3
H25	7	80	8.8
H26	11	115	9.6
H27	21	165	12.1
H28	24	228	8.3
H29	21	281	7.4
H30	20	294	6.8
R 元	15	267	5.3

表-6 2019 (令和元)年度クラス別の退学者数 (2020/2/22 現在)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
組	2	1	0	4	1	2	2	1	1	0	1	*	15
1A		1			1	1	1						4
2A				2			1		1				4
3A								1					1
4A													0
1B1	1										1		2
1B2						1							1
2B1	1			2									3
2B2													0

年度の退学者数は 3 月の進級判定会議結果による留年者の動向で、最終的には次年度 4 月の会議にて決定します。例年、留年により退学者が数名出ておりますので、今後、退学者数は増加する可能性があります。

表-5 より、今年度は 15 人の退学が出ていますが退学率 5.3%に関しましては過去 11 年度間で 2 番目に低い値であります。また、平成 27 年度をピークに退学率は減少傾向になっていきます。

表-6 は今年度のクラス別の退学者数を示したものです。4 月の退学者については前年度に留年した学生が継続して在学かまたは新たな進路に向かうかが決まらず、年度明けで退学願いを提出するケースが見受けられます。またこの傾向は下級学年に多く現れます。退学理由に関しましては進路変更(進学又は就職)、健康上又は経済的理由などが挙げられます。過去の退学者の共通の傾向を調査した結果、高等学校時代の欠席日数が多いこと、または通学が身に付いていない、高等学校のランクや教科の評定が低いことです。このことは本校の時間割に対応できず欠席、その影響で授業内容が分からなくなり、長欠席から課題等未提出、単位未修得が生じることにより

建設の人としての志が薄れて退学に傾いてしまいます。退学者を減少させるため、一般出願時の高等学校調査書記載の内容で欠席数が多い場合は面接試験を実施し必要な注意を促し、また予防対策として前もって学校説明会での個人面談のさいに確認の上、必要な話(学生出席率 90%以上)をしています。

病気を理由に退学する学生については持病や精神的障害により通学の困難さが妨げになり長欠席を理由に退学してしまいます。本人の専門を学ぶ強い意志があるにも関わらず病気によりその思いが果たせないことは残念であります。経済的理由により退学を余儀なくされる学生は多くはありませんが年度により生じます。この4月から実施される文部科学省の「高等教育修学支援新制度」の利用が可能となりますが本校、在學生で申請者は20人程であります。

入学者を全員、就職(一部進学)させることが本校の使命であります。専任教員には上記の就職や進路変更が理由の退学者を減少させるため、科目担当の先生方には入学時の建築に対するモチベーションを維持・向上させるための教育指導を継続して実施いただき、また、担任においてはとくに生活指導などご父母等、保護者とも連携をはかり、退学防止に努めていただくことをお願いいたします。

(3) 就職活動状況

表-7 過去5年間のクラス別の学校依頼者内定率 (2020/2/18 現在)

学 科	平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	100%	8/8	100%	5/5	100%	12/12	100%	17/17	100%	17/17
建築工学科	100%	8/8	100%	5/5	100%	12/12	100%	17/17	100%	17/17
建築デザイン科	100%	18/18	100%	24/24	100%	44/44	100%	46/46	88%	28/32
計	100%	26/26	100%	29/29	100%	56/56	100%	63/63	92%	45/49

表-7 は過去5年間の学科別の学校依頼者内定率を示したものです。

本年度の求人倍率(単純に求人件数 / 学校依頼就職希望者)は1人あたり約7.6社で昨年度約5.9社の約1.28倍となりました。また、就職先等選定に関しては学校依頼が56%、本人による者が33%、進学が6%でその殆どが建築工学科3年への編入であります。

(4) 資格取得状況

1. 2級建築施工管理技術検定合格率 2019年11月10日試験実施

全国合格平均率 25.3% (前年度 25.9%)

学校一括申込者合格率 21.4% (3名/14名) (前年度 25.8% 8名/31名)

*上記の2級建築施工管理技術検定(学科試験のみ受験)試験は平成28年度において建設業法施行令等改正があり、満17歳以上となる方が受験できるようになりました。

2. 福祉住環境コーディネーター検定試験

3級 2019年7月7日試験実施

全国合格平均率 60.6% (前年度 56.6%)

本校合格平均率 64.4% (47名/73名) (前年度 36.4% 24名/66名)

本校受験率 68.9% (73名/106名) (前年度 55.5% 66名/119名)

3. 建築CAD検定試験

3級 2020年1月11日試験実施

全国合格平均率 _____ 第79回 (前年度 69.0% 第75回)

本校合格平均率 _____% _____名/9名 (前年度 76.5% 13名/17名)

本校受験率 13.8% (9名/65名) (前年度 22.1% 17名/77名)

4. MOS(マイクロソフトオフィススペシャリスト)

○Word スペシャリスト 2019年7月20日試験実施

全国合格平均率 非公開 (前年度 非公開)

本校合格平均率 33.3% (6名 /18名) (前年度 41.2% 7名/17名)
本校受験率 17.0%(18名/106名) (前年度 14.3% 17名/119名)

○Excel スペシャリスト 2020年1月25日試験実施

全国合格平均率 非公開 (前年度 非公開)
本校合格平均率 85.7% (6名 /7名) (前年度 80.0% 8名/10名)
本校受験率 6.60%(7名/106名) (前年度 8.4% 10名/119名)

5. JIS 品質管理責任者(JIS 規格より講習)

建築工学科(4年制) 合格率 97.7% (43名/44名) (前年度 96.4% 27名/28名)

6. 建築積算士補 2020年2月1日試験実施

建築工学科合格率 92.0% (23名/25名) (前年度 93.3% 14名/15名)
建築デザイン科合格率 80.6% (25名/31名) (前年度 80.0% 20名/25名)

(5) 富士訓練センター技能訓練合宿

(職業訓練法人全国建設産業教育訓練協会 富士教育訓練センターを利用して技能講習終了をめざす)

- ① 日 程 令和元年8月26日(月)~9月1日(日) (日曜日も実施 計6泊7日)
- ② 引 率 加藤 直樹、小澤 宏、名島 友基、山本 大貴
- ③ 訓練内容 玉掛け技能講習、小型移動式クレーン技能講習又は車両系建設機械(整地他)運転技能講習
- ④ 結 果 受講者 21名全員 (前年度 24名) が技能講習終了